

山口情報芸術センター [YCAM] 教育プログラム

未来の山口の授業

音景(おんけい) クルーズ

2020年11月～2021年1月までに全8回 各日13:00～16:00(各日完結) 参加無料※要申込
インターネット(ビデオ会議システム)

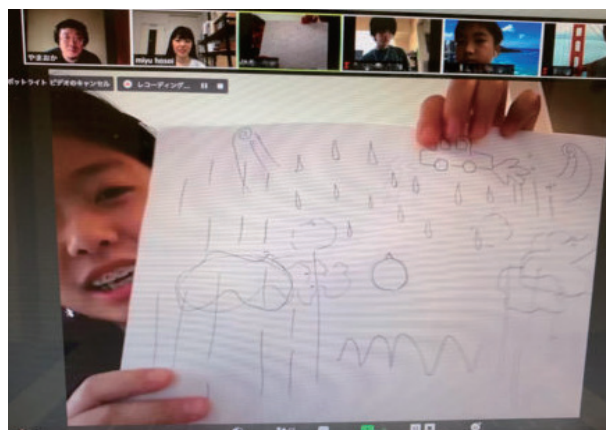
聞こえた音は、どんな形?どんな色?

音にまつわる新たなワークショップをオンラインで実施!

山口情報芸術センター [YCAM] では、音から得た「イメージ」を参加者同士で共有することで、「音」と「空間」の関わりについて学ぶオリジナルの教育プログラム「音景(おんけい) クルーズ」をオンラインで実施します。

このプログラムは、2019年に発表した細井美裕+石若駿+YCAMによるコンサートピース「Sound Mine (サウンド・マイン)」のコンセプトである「私たちが普段何気なく聴いている音の中から、情報を掘り起こす」という考えを踏襲して開発しました。参加者はワークショップ内で、身近な空間の特性を再認識させたり、様々なイメージを人に喚起させるような音を収集します。そして他の参加者が収録した音と聴き比べ、意見を交換することで、私たちが音からどのような情報を得ているか、音を起点とした想像力の可能性について理解を深めていきます。

このプログラムは、YCAMが開発した教育プログラムを紹介するイベントシリーズ「未来の山口の授業」の一環として開催するもので、メディア・テクノロジーやそれを生かした表現について新しい視点を提示します。この機会にぜひご体験ください。



代官山ティーンズ・クリエイティブ・アートスクール*より
「Sound Mine Workshop ～音の景色を集めよう～」の様子(2020)

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

[お問い合わせ]

山口情報芸術センター [YCAM] 学芸普及課
〒753-0075 山口県山口市中国町7-7

TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 メールアドレス: press@ycam.jp ウェブサイト: www.ycam.jp

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

多彩な教育普及プログラムを全国に発信 – 「未来の山口の授業」



オリジナル・ワークショップ「walking around surround (ウォーキング・アラウンド・サラウンド)」
撮影：丸尾隆一 (YCAM)

YCAMは2003年の開館以来、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現と鑑賞者をつなぐため、研究開発プロジェクトや作品制作の過程で得たテクニックや知見、開発したソフトウェア／ハードウェアなどを応用して、「オリジナル・ワークショップ」と呼ばれる教育プログラムを多数開発／実施してきました。

いずれの教育プログラムも、人と「身体」「社会」「テクノロジー」との関わり方をテーマとしています。ここで主眼を置いているのは単なる知識強化や課題解決を目指した狭義の「メディア・リテラシー教育」だけではありません。あくまで普段の生活に新たな視点をもたらすことを重視し、それまでにない価値観を通して物事を捉える想像力／創造力／柔軟性の向上につながるよう設計されています。そのため参加者は、自分自身の好奇心から出発し、YCAMのスタッフや他の参加者とともに考え、試行錯誤していくことで、学校などの他の教育機関とは異なる主体的な「学び」を得ることができるのです。

そして、2016年からは、YCAMが開発した教育プログラムを次世代に向けた新たな教育モデルとして持続的に展開し、より広く発信できるように、「未来の山口の授業」という枠組みをスタートしました。以降はYCAMでのイベントとしての実施にとどまらず、山口市内の小学校と連携しながら授業内での実施も進めています。

今回は、この「未来の山口の授業」の一環として、「音」と「空間」の関わりについて学ぶオリジナルの教育プログラム「音景クルーズ」を新たに開発。YCAMで初めて実施します。

音の風景を共有することから、音というメディアについて考える



代官山ティーンズ・クリエイティブ“アートスクール”より
「Sound Mine Workshop ～音の景色を集めよう～」の様子 (2020)

今回実施する「音景クルーズ」の背景にあるのは、2019年にボイスアーティストの細井美裕と、世界的に注目を集める若手打楽器奏者・石若駿、そしてYCAMのコラボレーションにより制作／発表したコンサートピース「Sound Mine」と、その関連イベント「バックステージツアー」です。これらのイベントは、音と響きを通じて観客に様々な記憶を喚起させ、普段何気なく聴いている音に対して新たな視点を提示するという共通したコンセプトを持っていました。

「音景クルーズ」は細井を共同開発者に迎え、このコンセプトを踏まえたうえで、より身近な環境で体験できるように再構成した教育プログラムです。各参加者が身近な場所で音を記録し、それを参加者全員でじっくりと聴き、そこからイメージされる空間、オブジェクト、アイデアを、絵や模様などの言葉によらない形式を通じて共有し、それを起点に音から得られる情報について議論や対話をおこなっていきます。今回、実施のためのプラットフォームとしてビデオ会議システムを採用しており、YCAMの教育プログラムとしては初めてオンラインで実施するものとなります。それぞれの身近な空間からプログラムに参加できる環境を整えることで、音を通じて参加者個人の日常的な環境と向かい合いつつ、他の参加者の環境にも耳を傾けることができます。

音のメディア的な特性はもちろん、人間の聴覚や空間認識能力の特性、音を通じた表現の可能性に目を向けるきっかけとなるでしょう。

■ Sound Mine (サウンド・マイン)

2019年に発表された細井美裕、石若駿、そしてYCAMのコラボレーションによるコンサートピース。YCAM館内をはじめ、山口県内でユニークな残響が起こる建築物や自然空間で響きの特性を採取し、それに基づいて観客に様々な記憶を喚起させる音の風景をコンサートピースとして構築。一般的なコンサートとは異なり、観客はヘッドフォンを通じて、上述の音の風景の中を移動するかのように、音が立体的に動きまわる様子を体験しました。また、聴覚と視覚が連動することで生まれる抽象的なイメージを通して、観客は自身の感覚や記憶と向き合いました。その関連イベントとして開催されたのが「バックステージツアー」。参加者はさまざまな空間が持つ響きを実際に記録したり、聴き比べていくことで、作品の制作過程の一部を追体験しました。



撮影：谷康弘

開催概要

未来の山口の授業

音景（おんけい）クルーズ

2020年 11月7日（土）、8日（日）

12月13日（日）、20（日）、26日（土）、27日（日）

2021年 1月9日（土）、10日（日）

各日 13:00～16:00 ※各日完結

会場：インターネット（ビデオ会議システム）

参加無料 ※要申込

定員：各回6名（先着）

対象：小学生以上

持ち物：

- zoom（Web会議システム）を使用できるPC、スマートフォン、タブレットなどの電子デバイス
- イヤフォンもしくはヘッドフォン
- A4サイズ程度の紙（15枚以上）※ノートなども可
- 太めの黒ペン
- カラーペン、色鉛筆など ※なくても可

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市教育委員会

助成：令和2年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター [YCAM]

■ 申込方法

下記ウェブサイト内に用意された申込フォームに記入

ウェブサイト：

www.ycam.jp

申込締切日：各回開催前日まで

（定員に達し次第終了）